

平成28年度第1回古賀市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	平成28年6月30日(木) 13:30~15:45		
開催場所	サンコスモ古賀 201 研修室	公開の可否	可
事務局	保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	井上 豊久会長 角森輝美委員、梯裕子委員、加藤典子委員、桑野嘉津子委員、 下川由貴子委員、末次威生委員、高橋千里委員、中田拓弥委員、 松尾恵美子委員、村松大輔委員、大和郁雄委員	
	事務局	青谷保健福祉部長、村山子育て支援課長、坂井こども係長、 渋田家庭支援係長、新本こども係員	
	その他	松岡議事係長	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度子ども・子育て会議の年間予定 ・子ども条例(仮称)策定に係る概要説明 ・子ども条例(仮称)策定に係る協議 ・古賀市子ども・子育て支援事業計画進捗管理概要説明 ・古賀市子ども・子育て支援事業計画の平成27年度実績報告 ・計画中施策の具体的な取り組みに係る進捗管理協議 		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度子ども・子育て会議年間スケジュール ・古賀市子ども条例(仮称)の策定に向けて ・計画の進捗状況等の管理・評価について ・計画における量の見込みと確保方策の実績報告 		

○次第

- 1 事務局あいさつ及び諮問書提出
 - 2 会長あいさつ
 - 3 平成28年度子ども・子育て会議の年間予定
 - 4 子ども条例（仮称）策定に係る概要説明
 - 5 子ども条例（仮称）策定に係る協議
 - 6 古賀市子ども・子育て支援事業計画進捗管理概要説明
 - 7 古賀市子ども・子育て支援事業計画の平成27年度実績報告
 - 8 計画中施策の具体的な取り組みに係る進捗管理協議
-

平成28年度第1回古賀市子ども・子育て会議（会議概要）

1. 諮問書の提出

- ・青谷保健福祉部長から会長井上豊久氏諮問書を提出

2. 会長あいさつ

3. 平成28年度子ども・子育て会議の年間予定

（事務局）

- ・古賀市子ども・子育て会議（以下本会議）の年度中予定の説明

4. 子ども条例（仮称）策定に係る概要説明

（事務局）

- ・子ども条例（仮称）（以下条例）策定にあたり概要説明

5. 子ども条例（仮称）策定に係る協議

（審議）

（井上会長）

- ・事務局より概要説明があったが、条例制定に向けて、章立ての提案や、条例に盛り込みたいこと等意見を求める。

（大和委員）

- ・例示として、調布市と長崎市があがっているが、何故この2例なのか。近隣で同様の例がないのか。

（事務局）

- ・全自治体を調査できてはいないが、福岡県下の自治体においては、子どもの権利条例に類するものが多く、本市が目指す理念条例に類似するものとして、今回の2自治体を例示し

たものである。

(加藤委員)

- ・ 諮問書には児童と出ている。児童といえば小学生までと思われるが、18歳までを対象とするのか。
- ・ 広く市民を対象とする条例となるので、本会議ではなく他の会議を設ける必要があるのではないか。
- ・ 18歳までが対象であれば、学校教育課との連携は必須だと思われるため、会議への出席を求める。

(事務局)

- ・ 例示自治体は18歳までを対象としている。児童等の解釈については、条例の定義の項で設定していく。
- ・ 計画中には学齢児についての施策も含まれていることから、本会議に提言を求める。
- ・ 他課とは協議内容に応じて、同席を求めていく。

(会長)

- ・ 他課との連携はお願いしたい。児童の定義は条文の中で行う。

(角森委員)

- ・ 第4次古賀市総合振興計画にうたっているとのことだが、計画では担当課はどこになっているのか。

(事務局)

- ・ 担当はうたっていないが、主に子育て支援課が、関係する所管課と連携して、取りまとめることとなる。
- ・ 次回会議に第4次古賀市総合振興計画該当頁の写しを提出する。

(大和委員)

- ・ 子ども・子育て新制度の中で、どのような家庭に育っても子どもが健やかに育つよううたっているのだから、このあたりを取り入れてはいかかがか。

(高橋委員)

- ・ 子どもたちと関わりを持つ中で障害などの「見える内容」と虐待、犯罪等の「見えない内容」があると気付いた。最近は子どもの貧困などもある。
- ・ 私たちが支援を「しているつもり」になっていないか考えていきたい。

(松尾委員)

- ・ 特別支援員として小学生と関わっているが、ご飯を食べてこない子どもや親が夜まで子どもを引き回す事案などがある中、長崎県が条例にうたう「家庭の日」はとてもいい施策であり、親が子どもへの愛を再確認できる場合は必要と考える。

(梯委員)

- ・ 日頃子育て支援に携わっているが、親の支援になりがちである。「子どもが真ん中、子どもの育ちが一番」と考えていきたい。
- ・ 安全と育ちのバランスが難しい。大人がひっぱるのではなく、子どもが自分で育っていく環境が大事。

(末次委員)

- ・元区長として地域活動を省みたときに、小学生以上の子どもについては地域と関わるイベントが多いが、3歳以下の子どもがいる世帯を対象とした支援が少なかったと感じる。

(下川委員)

- ・地域との関わりと言う面では、障害児を抱えた家庭への支援も希薄を感じる。公の力は勿論だが、地域との関わりも必要である。

(桑野委員)

- ・諮問書に「途切れることのない支援体制の構築」とうたわれているが、縦割り行政では困難を感じる。条例制定に関しては学齢児も含まれることから、学校教育課と協同で取り組んで欲しい。

(角森委員)

- ・条例の中で連携をうたうのもいいのではないかな。

(村松委員)

- ・教育の現場からは、古賀市の色として人権教育と特別支援教育は入れたい。
- ・古賀市で行っているPTCA（Pは親、Tは学校、Cは地域）の各役割を明示し、その役割のシェアとコラボをうたっていききたい。

(加藤委員)

- ・PTCAという言葉を使って取り組んでいるのは現在東中のみである。全市に広げてほしい。
- ・子どもの人権はやはり大事にしたい。
- ・今は民間の放課後デイサービスも出来ているが、質の確保ができていないか、学校教育課などがチェックしてほしい。
- ・不登校や引きこもりの子どものケアも必要
- ・現在隣保館のみで行われているスタンドアローン事業の全市化を希望する。
- ・子ども自身の持つ力を信じて、後ろから支える支援を考えたい。
- ・障害児福祉について、手帳を持つ子どもは手厚い福祉が受けられるが、ボーダーの子どもには支援が全く無い。生き辛い子どもへの支援が必要である。

(中田委員)

- ・幼稚園は福岡県の助成で運営しているため、市との関わりが希薄である。
- ・条例でうたう各々の役割についてだが、保護者の役割というのは大切だと感じる。

6. 古賀市子ども・子育て支援事業計画進捗管理概要説明

(事務局)

- ・子ども・子育て支援事業計画の進捗管理にあたり概要説明

7. 古賀市子ども・子育て支援事業計画の平成27年度実績報告

(事務局)

- ・子ども・子育て支援事業計画の量の見込みと確保方策について、平成27年度実績を説明。

8. 計画中施策の具体的な取り組みに係る進捗管理協議

(会長)

- ・今年度は施策中の基本事業1の進捗を確認し、その他の事業は来年度に行いたい。
- ・全ての事業についての聴取は困難であるため、20事業程度にしぼりたい。聴取希望の事業はあるか。

(梯委員)

- ・(3)-17「アンビシャス広場作り事業」。長年行っている事業なので、家庭と学校の間で何を行っているか等や進捗状況を確認したい。
- ・(2)-9「子ども体験広場事業」。リヤカーキャンプ等長年行っている事業なので、進捗の確認をしたい。併せて子どもの環境の変化に応じて、今後の事業についてどう考えるか聞きたい。
- ・(3)-24「地域コミュニティにおける子育て支援推進事業」。現在子育てサロン等の立ち上げが進んでいる状況だが、今後どのように事業を進めていくのか尋ねたい。

(会長)

- ・(3)-18「通学合宿事業」。事業の内容を尋ねたい。

(下川委員)

- ・(3)-6「総合的な学習事業」。具体的な活動内容と今後の展開を尋ねたい。

(桑野委員)

- ・計画策定時の答申の中で「関係する全ての市職員が本計画に掲げる「生きる力」を理解した上で、関係各課の連携を図りながら施策に反映していく」と求めたところであるが、具体的にどのような連携をとったのか。

(事務局)

- ・計画については前課に配布をしている。
- ・全職員が計画内容を把握しているとは言いがたく、今後の課題としたい。

(高橋委員)

- ・前回の計画策定時に家庭教育の大切さについて議論があった。今後どう考えていくか。

(大和委員)

- ・各事業の聴取も必要だが、出生率等のデータも提示を希望する。

(梯委員)

- ・答申の中にある「豊かな遊び」の大切さをどう考えていくのか。

(角森委員)

- ・現在の計画は既存事業についてうたっているが、次回の計画策定もふまえて、現在予定している新事業について尋ねたい。

(事務局)

- ・関係各課に調査する。
- ・聴取事業選定については、今日だけでは困難であることから、後日調査票を配布し、回答いただく形としたい。

(会長)

- ・了承する。

8. その他

(事務局)

- ・特定教育・保育施設の利用定員設定に関するの情報提供

9. 閉会あいさつ

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

会 長

署名委員